



古今
續
中
此
為
塔

三

1869
3

怪談そのの巻卷之三

目録

冥氣とく 飢渴得る唐土の雷煥

附 重徳院の赤火の事

女花とく 難く遊ぶ香翹の倒ぬ

附 菊の精女と化ける事

飛鈴とく 名を絶て度伏乃掌勢

附 鈴小虫と妻になる事

針籠とく 世にすまらぬ隙範

附 了程と村の事

小娘とく 打落る古程乃偏脅

附 多ぬきかきり的事

岩頭とてくさ樹と将人乃独米

附 程の抜鼓ゆりさぬ事

彈凡とてくさ樹よ艶貞の化女

附 寶とあさる山姥の事

二玉とてくさる事の鱈生

附 猶去名もまぬねおと事

利刀とてくさ割破る蟒蛇の狼中

附 地に分食とて人の事

蛇切とてくさ名とてふに別の旅人

附 湖よ入し事とて得る事

懐物中のわび巻之三

附 後院の表靈氣の事

金曆えんき八月の流うやよ海東吉田とのみ所

小作居せる春成りたぐり利事ありてお栗の

堀川ありたりあり要事とておひてぬりたる

にあらあたるこのよひやこれおとあんの表の

とねとてくさるこおとありに月出るやうに

ありくさるたりあるやうにや中とて月のつる

附 おてもありとるにとは方おとあんとおと

何の事もあつてあつて一面は表のめとるに

とてふとてくさる又あつてあつてあつてあつて

方とてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

島の中れあり金俵ありあつてあつてあつてあつて

しおとあつてあつてあつてあつてあつてあつて

してあはれ人むかひぬらふとせむる人の乃園
 いふせいのきこやよそよあしあし乃あつ名も
 いふとねしうらちも月もみちこはれ雅彦よ
 してちこちうしすれぬらりむさしとさ男ハ
 乃ちちゆてやうり標とさこゆけどらうしハ
 さしそのころめそのおのり着女とさうし
 傷のふしど殺の中作はさうつとささくは
 より傷めいよこのひとさしとさあつと
 ともさうしよやむ事さしとさあつとさあつと
 人あつとさうして名もいふたうしとさあつと
 死にたれある人傷ようしとさあつとさあつと
 雅彦乃ものむけとさあつとさあつとさあつと
 ともえ傷とさうしとさあつとさあつとさあつと
 してめとさあつとさあつとさあつとさあつと



かざり城よりそ移へてつらつらうのちそへ入るを
 きこふふらりるんど村らうらうらうのばとをきこ
 乃極まらり自然とほさゆふとれをばけりめ
 のをとおさめいものうらとをらりほくかゝるあ
 の信い
 りや乃わらうらうらうらうらうらうらうらうら
 いきよあこのうきえを打えはくくくくくくくく
 かんどわらしてよめが物よとのんちほとをめか
 かなよらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 めもちりばあてまぞのめなれをいよまといや
 めらりつゝ十日ならりもさなれもありてな
 つしすまふらうらうらうらうらうらうらうら
 らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 ぶらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 乃ねがらうらうらうらうらうらうらうらうら
 乃ねがらうらうらうらうらうらうらうらうら



絶別日言船乃獵師多むいり山へり去る
 うけとわさるいしよの唐系とくとして
 薄くはひよらりゆれありく穉るり麻さ
 へとあひをりく去る節うらるれこのもれも節
 よあふひてある葦萱とけ鉄炮とけ一と
 約よそのもさり七八つりやうこのそまて
 よ面内もぐ二尺さうりよんく口とひくふ
 るりも三尺さうりくれるぬら吉ひろい
 てせいのさささささ一尺さすよの大地
 じよと海よらうとさうとさうとさうと
 はよのちねんと鉄炮とけ一とためくは
 よあやまはははははははははははは
 あひの介よとととととととととととと
 るるふささあよはとととととととととと



さんごうごん悪口と控息ある事いふをうりあ
 ざうひんをくいまるある事いふをうりあ
 であまりぬと思ひ。あをせひくうらをそそ
 てもあふきよは地をこほると人まのまぬは地切
 といふうれいさうもあうとて又あうとあうは
 自強しうらまもあう。あうふけ海は地あるは
 してあをこつてあふはる地あるは又一人
 うえうらうもろくを面自うあれやじまへ
 ぐう下友のうさう静せんやまひ月つくと
 かのえとあうと吉自地己の静は退治する
 その海ははらあうくは地とらまうあう人
 ぶくうああひてあうとら。あうらあうはこ
 うといひあうらうとてま自ふなるに地を希
 ひうせうこふゆけを思物も解つれさあう時よ

乃ぞめを借酒あくちて砂てまうふかり下
 よわさけり。扱てあうの底よつらあをやと見
 ぶよあうらうらうらうてうあう。息ととくと
 つてて相く地やあるとちほは地なるに。あ
 とうあれど出あは地とあうもあうか。地
 あうらあうの下に度さこまう方らうらうら
 ろあうらうの洞はあうらうらうはうあて光
 りのみくうらうらうとあうひやて例ふら
 こくさうに力うらうあうてまうらうせひい
 と海合長ゆぬのあうらう。一夜ゆをそそりて
 うるぐーらうらうらうらうらうらうらう
 と下あふはき又うらうらうらうらうらう
 あげらうらうらうらうらうらうらうらう
 甲うらうらうの川あまうらうらうらう一あうら

とわしむるやうなほどよくかたねをいふの
乃入るるをよとみしてとらわりの差別もかく
なる様うしてのちと具是た力さうぞうも金
作らりよの物さびくされども金ハきつてけ
付極さびより傷え来るおろハ建長越えれ比
乃あつてんま大納言とつりかた物乃もの天
地をあらせらる勇士うふとちめてるりしと

懐狭中の内袋巻之三終



